

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	ダンスⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ダンスⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ダンススタジオ主宰、イベント、テーマパーク・ショー等のダンサー出演振付、振付アシスタントとして活動。				
授業概要					
身体の姿勢、使い方のチェックから、基本的なステップ(リズムの取り方)を学ぶ。 発表会を通して、ダンスの基本を習得する。					
到達目標					
ステージングや、舞台演出に必要なとなる基本的な動きを習得する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	姿勢チェック。腕、肩甲骨の使い方チェック 腹筋、腕立て。タオルを使って座位のストレッチ。				
【前期】 6～10回目	BOX、リトミックもどき。左・右/手・足を同時に別の動きを行う練習。 リズムとステップの練習曲				
【前期】 11～15回目	リズムステップの練習 コンビネーション				
【前期】 16～21回目	リズムステップチェック 前期テスト曲振り付け				
【後期】 22～24回目	発表会振り付け				
【後期】 25～28回目	衣装合わせ・振り固め				
【後期】 29～32回目	衣装付きリハーサル・振り固め 発表会				
【後期】 33～35回目	バトマン バランス シエネ				
【後期】 36～39回目	後期テスト曲振り付け				
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	演技基礎		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	演技基礎		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	舞台役者を経て現在はゲーム・ナレーションを中心に活動。リーディング公演の企画・制作など若手の活躍の場を作ることも行っている。					
授業概要						
声のみの演技・舞台上での演技問わず、演技全般における「感情」という点にフォーカスをあて、芝居に対する力を高める。 感情・心理・生理が全て連動した演技＝全身で表現する役者になる。						
到達目標						
多様なシチュエーションにおける喜怒哀楽の感情を身に付け、様々な形態の演技に対応出来るようにする。 失敗を恐れず、相手に伝わる感情を大きくアウトプットできるようにする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	授業への取り組み方/新人としてのあり方(挨拶・発信力・積極性) イントロダクション(個々の夢に向けて目標を定める・個性や長所を知る) 等身大で演じてみる					
【前期】 6～10回目	恥ずかしさを取り去る / 感情開放 表現の引き出しを増やす/自分ではない役の感情を表現する					
【前期】 11～15回目	台本を使用した身体を使った演技 その瞬間瞬間湧き出す感情にフォーカスし、相手と会話することができるか					
【前期】 16～21回目	1つの台本を自分なりに熟考・読解し、自身の演技を反映しながら演じる					
【後期】 21～39回目	前期の内容を踏まえ、様々な台本を使用しての演技					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	ヴォイトレ & 表現歌唱(基礎)		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォイトレ & 表現歌唱(基礎)	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ニューウェーブオペラで鮮烈なオペラデビューを飾る。ハロックオペラから現代オペラ・オペレッタ・ミュージカルまで多くの作品に出演。 狂言とオペラの東西文化融合舞台で活躍。コンサートでは高い身体能力を活かした華麗なステージとMC(語り)で好評を博し、					
授業概要						
歌を歌う為に必要なトレーニングを行う。						
到達目標						
歌唱に必要な基礎技術(呼吸、発声、姿勢、リズム、など)を習得する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	ヴォイストレーニングを始めるための準備 正しい姿勢、口の開け方、呼吸法(腹式・胸式)、ハミング、リップロール、音域チェック					
【前期】 3～21回目	ヴォイストレーイング、個人歌唱指導					
【後期】 22～39回目	ヴォイストレーニング、個人歌唱指導、グループ歌唱指導					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	発声基礎		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	発声基礎		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	声優・ナレーターとしてアニメ、テレビ、ドラマ、洋画の吹き替えに多数出演している。					
授業概要						
正しい声の出し方、アクセント、イントネーションを学ぶ。						
到達目標						
発声ができるようになるだけでなく、場面に合わせての役作りや、時間的制限のあるナレーションでも、しっかりと声を出せる技術を習得することを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	腹式呼吸、ロングブレス、ショートブレスについての解説					
【前期】 6～10回目	ア行からワ行まで発声練習の方法 音読：朗読のポイント説明①、外郎売					
【前期】 11～15回目	アクセント練習方法 表情筋トレーニング方法					
【前期】 16～21回目	母音交錯について					
【後期】 22～25回目	前期のおさらい 1万時間の法則について					
【後期】 26～29回目	体内時計の習得方法 1分間スピーチ					
【後期】 30～36回目	音読：朗読のポイント説明② 距離感やスピード感の実感					
【後期】 37～39回目	年間を通しての自己評価					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	舞台演技Ⅰ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	舞台演技Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	2000年から2023年まで劇団に在籍していた。 現在まで数々の舞台を経験。 また、声優としても映画、ナレーション、ゲームなどで活動している。				
授業概要					
基礎である発声、感じ方、感情表現、舞台での動きとそれに関わる体の使い方などを体験し、その取り組み方や関わり方を学ぶ。					
到達目標					
舞台上で演技をする為に必要な空間の共有や、相手とのやり取りの方法を習得する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	イントロダクション 自己紹介、授業の趣旨説明、舞台用語に関する講義、演技における体力強化の重要性				
【前期】 6～10回目	舞台上での演技とマイク前での演技の違いについて 舞台における表現方法、発声方法のメソッド、舞台の作り方				
【前期】 11～15回目	発想カトレーニング 一つの題材についてどこまで発想を膨らませられるか				
【前期】 16～21回目	読解カトレーニング 台本の原稿から何を読み取るか				
【後期】 22～39回目	前期を踏まえた上での各種演技台本の考察～実践				
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	声優基礎		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	声優基礎		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	声優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	劇団に所属し、退団後声優養成所を経て声優として活動。多くの洋画の吹き替えやTV番組ナレーション、アニメ、ゲームに出演。					
授業概要						
声優にとって必要な基礎能力(表現力、演技力など)の習得。						
到達目標						
文字を読むだけではなく、相手に伝えるということを理解し、場面に合わせての演技分けができるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	リズム・表情・発声・反射神経を同時に使うメソッド 発声・滑舌・リズムを兼ねたメソッド					
【前期】 6～10回目	感情表現について 役を作るときのヒントの探り方					
【前期】 11～15回目	インプロとは イメージネーションの中で言葉を伝える					
【前期】 16～20回目	滑舌訓練について					
【後期】 21～24回目	滑舌とイントネーションについて 唇と顎のアクティビティ					
【後期】 25～28回目	音圧を増すメソッド 滑舌とリズム					
【後期】 29～32回目	意識を払げる、笑いで腹筋を鍛える アクセントテキスト、早口滑舌発声					
【後期】 33～35回目	シーンの情景のイメージ					
【後期】 36～39回目	「語る」伝えるという事					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	アフレコⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	アフレコⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	声優としてアニメ・ゲーム・ドラマCDなどで活躍する。					
授業概要						
実際に映像を目の前にして演技を行う際のスキル、及び現場でのマイクワーク等を含めた基礎的な部分を学ぶ。						
到達目標						
アフレコを行う際の基本スキルの習得。						
授業計画・内容						
【前期】 1回目	アフレコを行う際のポイント・注意点の説明 各仕様機材の説明(コンデンサーマイク・キューボックス・DAW・ミキサー等)					
【前期】 2～10回目	台本読み キャラクター毎の演技の使い分けについて アフレコ録音、及びフィードバック					
【前期】 11～21回目	上記内容を繰り返し練習。 授業毎にフィードバックを行い、改善点の確認。					
【後期】 22～39回目	上記内容を繰り返し練習。 授業毎にフィードバックを行い、改善点の確認。					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	表現基礎		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	表現基礎		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	声優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	1984年テレビアニメでデビュー。1989年には声優仲間とコーラスグループを結成。以降も声優としてアニメや洋画の吹き替え等で活動中。また、和洋演舞チーム顧問を務め、芝居・演舞の舞台活動も精力的に行う。					
授業概要						
役者としての表現力を高めていく為の、様々なメソッドを紹介する。						
到達目標						
現場に出ても即対応出来るような表現力の基礎を身に付ける。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	○自己紹介 ○授業の趣旨、注意事項、礼節を重んじる業界である事、クラスの中ではお互いを尊重し合って自分たちで環境を整えてゆく事など。 ○インナーマッスルとアウターマッスルを鍛える ○自宅で持続できるトレーニング方法で柔軟で筋力のある身体づくりをする ○腹式発声法をしっかりと身につける ○簡単なインプロから始める					
【前期】 6～10回目	ゲーム感覚で体験できるインプロを用いて人前で自分を解放する事を容易にする 想像力を豊かにする					
【前期】 11～15回目	感情表現 喜怒哀楽を感覚とともに 五感を駆使して理論的に紐付けしながら体に落としこんでゆく					
【前期】 16～21回目	ひとり芝居 何もない舞台上に劇中空間を想像し、その中で体を使って想像の世界を具現化する。 生きた台詞とはどういうものかを体感する。					
【後期】 22～26回目	芝居とは？演技とは何か？ スタニスラフスキーシステムがわかりやすく身体に落ちる脚本を使って三人一組のロールプレイングを行う。					
【後期】 27～31回目	あるドラマのワンシーン 二人一組の激情型芝居を体験する 芝居はひとりではできないことは一般社会におけるコミュニケーション能力を高め他者と共存する事にも通じる					
【後期】 32～35回目	落語絵本はつてんじんを用いて ロールプレイングの後、ひとりで役もこなして朗読する声優の醍醐味を体感する					
【後期】 36～39回目	「行間をつなぐ」というインプロの手法を用いて戯曲を読み解く力をつけ、台詞の裏側にあるシチュエーションや背景を考察する。					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	セルフスタイリング		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	セルフスタイリング	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース、俳優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	二十歳から第一線で活動し、オールラウンダーとして映像や雑誌、企業広告、着物ヘア等々、ジャンル問わず幅広く活躍。					
授業概要						
キッチンとしたメイクの方法やスタイリングを学び、自分をより良く魅せる為のスキルを習得します。						
到達目標						
各場面(普段、ステージ上、プロフィール写真用など)に合わせ、それぞれ異なったメイクやファッションが必要となるので、自分に合った方法を見つけることが目的です。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	・ヘアスタイルとヘアメイクの重要性 ・それぞれの場面(普段、プロフィール、仕事)でのヘアメイクの違いなど					
【前期】 6～10回目	・スキンケアについて ・メイク道具の基礎知識 ・肌の特徴について ・肌のトラブルについて					
【前期】 11～15回目	・顔の特徴について(自分の顔を分析する) ・パーソナルカラーについて(自分が得意な色味を知る) ・フェイシャルマッサージについて					
【前期】 16～20回目	・ベースメイクについて ・眉毛のメイクや整え方 ・目元のメイク(アイライン、アイシャドウ)					
【後期】 21～24回目	・チーク・リップ ・ヘアメイクとの組み合わせ方 ・ヘア道具(コテ、ヘアアイロンの使い方)					
【後期】 25～29回目	・スタイリング剤の種類と使い方 ・服装について ・自分の体にあったサイズの選び方、色の組み合わせ方					
【後期】 30～34回目	・服装での季節感について ・メイクとの合わせ方 ・流行のファッション、カラーについて ・小物の使い方					
【後期】 35～39回目	・ヘアスタイル、メイク、ファッションを総合した自分のプロデュース ・自分らしさを生かしたキャラクターの作り方 ・ヘアメイクの重要性					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	ナレーション基礎(発声&滑舌)		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ナレーション基礎(発声&滑舌)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	元テレビアナウンサー。総合司会やメインキャスターを務め、レポートのほかにナレーションや企画・構成・取材も担当するなど活躍。ラジオ番組にも多数出演。					
授業概要						
日本語の発音についての基礎を学びます。						
到達目標						
正しい日本語が話せるようになることを目標とします。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	あいさつの練習 名前をしっかりと発音 プリント朗読					
【前期】 6～10回目	母音口形、正しい口の形を覚える 母音練習プリント、母音組合せ単語の発声方法					
【前期】 11～15回目	音を出す時のコツ 2拍フットの練習					
【前期】 16～21回目	長母音練習 鼻濁音練習					
【後期】 22～25回目	滑舌練習 無声音の練習 破裂音					
【後期】 26～30回目	子音練習 舌の位置確認					
【後期】 31～34回目	ナレーション読みの為の基礎練習 CM原稿を使つての基礎練習					
【後期】 35～39回目	TV番組宣伝ナレーションでの基礎練習 台詞の滑舌練習					
評価方法	学期末に実施する試験点数、出席率、講師評価等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	分野別講座	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	声優養成コース、俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	・卒業後の進路に向けて①(デビュー・業界知識) ・音楽活動における基礎知識①(リハーサルスタジオの使い方)□				
【前期】 6～10回目	・楽器の基礎知識①(ギター、ベース、ドラム) ・音楽業界基礎知識①(コンサート制作)				
【前期】 11～15回目	・イベントの基礎知識(レコーディング、PA、照明) ・発声の基礎知識①(台詞、滑舌、歌唱)				
【前期】 16～20回目	・一般教養①(メールと電話、敬語) ・身体表現の基礎知識①(ボーjing)				
【後期】 21～24回目	・卒業後の進路に向けて②(就職) ・身体表現の基礎知識②(ダンス) ・音楽活動における基礎知識②(譜面の読み方・書き方、ボーカロイド)				
【後期】 25～29回目	・パソコンの基礎知識(Word、Excel、Photoshop、illustrator) ・所得税と源泉徴収・確定申告 ・消費税とインボイス制度				
【後期】 30～34回目	・身体表現の基礎知識③(ボディサイエンス、脚本演出) ・発声の基礎知識②(アフレコ)□				
【後期】 35～38回目	・音楽業界基礎知識②(著作権) ・一般教養②(ビジネスマナー) ・表現応用(イベント研究)				
評価方法	各授業後のレポート、出席率等の項目から総合的に評価する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 声優芸能科

授業科目名	声優芸能実地演習Ⅰ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	声優芸能実地演習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	180分(1単位時間45分)		年間授業数	10回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	声優養成コース、俳優養成コース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等					
授業概要						
それぞれのイベント等における対応、現場における進行の様子・作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	舞台観劇 特別授業、イベント					
【前期】 4～5回目	前期公演					
【後期】 6～7回目	オーディション対策特別授業					
【後期】 8～10回目	特別授業、イベント 進級公演					
評価方法	授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価					
備考						